



馬の学校

# 馬の学校通信

2006. 9 vol.23

発行 馬の学校

事務局 〒560-0084 大阪府豊中市新千里南町 3-27-26 TEL/FAX: 06-6330-0406 (変更)

E-mail: mine@dp.u-netsurf.ne.jp ホームページ: http://www.horseschool.org



## 秋のプログラム 参加者募集!!

### ファミリープログラム (日帰り)

日程: 10月21日(土)/11月5日(日) 午前10時半~午後4時 \*小雨決行  
場所: ホーストレッキングわち (京都府船井郡京丹波町出野小字カジロ)  
対象: 幼・小・中・高校生のお子さんとそのご家族 (定員3家族)  
参加費: 1家族 ¥15,000/1回 (現地集合・解散)  
別途 食費 1人 ¥500

### 馬とのふれあいプログラム (約2時間)

日程: 11月23日(木・祝) 午前10時~12時 \*小雨決行  
場所: わらしべ乗馬センター (枚方市王仁公園内)  
対象: 小・中・高校生 (定員4名) \*原則として保護者同伴  
参加費: 1人 ¥8,000 (現地集合・解散)

### 馬とのふれあいプログラム (約2時間)

日程: 10月14日(土)/11月19日(日) 午前10~12時 \*雨天決行  
場所: 服部緑地乗馬センター (豊中市服部緑地1-5)  
対象: 小・中・高校生 (定員4名) \*原則として保護者同伴  
参加費: 1人 ¥8,000/1回 (現地集合・解散)

\*ふれあいプログラムはボランティアがマンツーマンでサポートします  
★お申し込みは、会員の皆さまは9月16日(土)から、一般の方は18日(月)から、電話・FAX・E-mailで事務局まで!

★電話・FAX番号変わりました→ 06-6330-0406

\*留守電になっている場合は、お名前・ご希望のプログラム名をお伝えください。折り返し、こちらからご連絡いたします。

## 「ウマコンテスト」締め切り間近!

- ①作文 400字以上 2000字以下 (原稿用紙に手書きかワープロ)
  - ②絵 B4以内の大きさの画用紙を使用・画材は自由
  - ③写真 サービス判 (デジタル写真可)
- 賞品: 応募者全員に記念品を、優秀な作品に馬グッズをプレゼント  
応募先: 馬の学校事務局 (作品タイトル、住所・氏名・年齢・電話番号を明記)  
締切り: 2006年9月30日 結果発表: 11月上旬

## 夏のプログラム 活動報告

### ウマキャンプ (8/1~4)



お天気に恵まれ、いろいろなことにチャレンジした4日間でした。

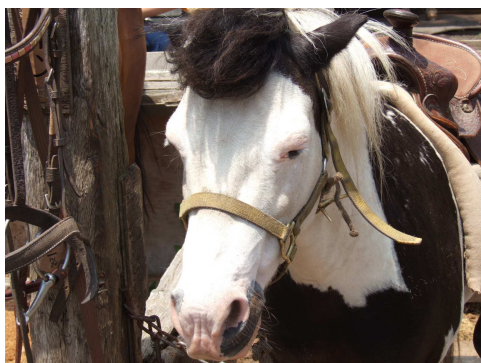
### ファミリープログラム (7/1)



みんなで雨雲を吹き飛ばし、馬とのふれあいを楽しみました。



## 馬の写真館



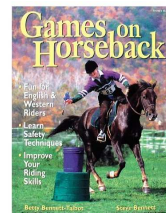
かなり怪しい・・・？

## おすすめの本

『Games on Horseback』

Betty Bennett-Talbot & Steve Bennett

この本には馬に乗ってするゲームがたくさん紹介されています。初級者向きから上級者向きまでの幅広いゲームが、わかりやすいイラスト入りで載っているので、英語を読まなくてもおおよそ分かります。そのゲームをする目的や、バリエーションも書かれていて、内容の濃い1冊です。(Amazonで購入可)

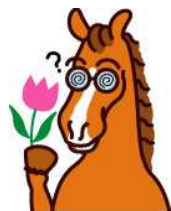


# おうまの教室

## 馬の目(め)のひみつ

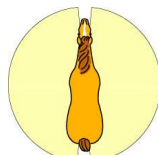
### 色はわかるの？

色はわかりますが、人間と同じようには見えていないといわれています。黄色がいちばんよくわかり、赤色がいちばんわかりにくいそうです。



### うしろも見えるの？

馬の目は顔の横についているため、顔の向きを変えなくても後ろの方まで見ることができます。(視野は約340度)でも見えないところが2つあります。それは真正面と真後ろ。「馬の後ろに行ってはいけない」とよく言われるのは、馬にとっては見えないところなので、馬が「あぶない」と感じたら、けるかもしれないからです。



黄色いところが見えています

## 編集後記

長梅雨の後の暑い暑い夏、皆さまはどのように過ごされたでしょうか？馬の学校では、ファミリープログラムとウマキャンプを無事に終えることができました。また夏休み中には、昨年に引き続きホーストレッキングわちにて大阪 YMCA 国際専門学校・表現コミュニケーション学科の特別プログラムを行ったり、小須田牧場にて帝京科学大学・アニマルサイエンス学科の牧場実習も行いました。その実習では、将来人と動物に関わる仕事を目指す学生達に、馬という動物を知り、子どもたちの教育にどのように活用することができるかを考えてもらうことを目的としていました。何をどのように伝えていくかを考える機会にもなり、元気一杯の学生たちと過ごして私にとっても楽しく充実した時間でした。多くの学生達が「ウマキャンプにボランティアとして参加したい」と言ってくれており、今後が楽しみです。

(峯崎 友香理)